

健康と光線

自然に罪が功に勝るものはない

例年、この時期になると腹立たしい思いに駆られます。日光の紫外線を防ぐさまざまな商品(UVカット)を宣伝するついでに、紫外線に当たると大変なことになると声高に言い始めるからです。マスメディアを乗っ取ったかのとき宣伝攻勢の甲斐あって、今や殆どの人が紫外線は悪玉と信じて疑わないほど洗脳することに成功したようです。しかしちょっと待ってください。人知を超えて完璧に作られている自然界に不必要なものなどあるでしょうか。逃げ回らなければならぬものなどあるのでしょうか。そんなものは絶対にありません。それは紫外線とて同じはずで。

これを裏付ける端的な例の一つが、乳児に外で日光浴をさせることです。乳児に与える母乳(牛乳)に欠けている唯一の栄養素がビタミンDです。従って別の形でビタミンDを補わないと健全な発育が妨げられ重大な支障を来します。それを防ぐ自然の摂理が紫外線を浴びればビタミンDが出来る仕組みです。しかし文明の進歩は私たちと自然との関係を希薄にし、乳児の生活の場から摂理に反して日光を遠ざけました。そのためヨーロッパを中心にクル病が多発する事態を招きました。しかしその後日光浴だけが予防手段になることが明らかにされ、今では広く用いられるようになったのです。

紫外線で変性した人工物の害は紫外線の害でない

前述したように紫外線は私たちにとってなくてはならないものですが、人工的に作られた物にはしばしば相当の悪影響を与えます。しかしこれをもって日光が悪いのかのように意図的に歪曲し、脅迫に近い宣伝を繰り返すことで紫外線悪玉説を流布し、人の健康を阻害するのとしたら看過し難いことです。その最も顕著な例が紫外線による皮膚障害です。戦前のわが国には化粧をする習慣がありませんでした。屋外で働く女性もシミひとつない美しい肌をしていたことを思い出してください。無論、日焼けに伴う皮膚障害もなかったはずで、これは年間を通して日光を素肌に浴びる自然に順応した暮らしをしてきたからです。しかるに戦後に猫も杓子も化粧をする習慣を身に付けてから、肌のトラブルが頻発するようになりました。これは化粧品に含まれる油脂や香料が紫外線で変性し皮膚障害の

自然から遠ざかるだけ健康を失った

日光に親しめば健康に役立つ

サナモア光線協会
サナモア中央診療所
医学博士 宇都宮 光明

原因になったためですが、社会的に信用されている大企業が臆面もなく紫外線そのものが原因であるかのごときすり替えの宣伝をするのですから、一般人が騙されるのもやむを得ないのかも知れません。

日光を浴びれば風邪を引かない

日光を浴び紫外線を浴びてその恵みを享受すれば、必ず健康に役立ちます。その一つの根拠が紫外線のビタミンDの生成作用にあることは間違いありません。ビタミンDが母乳のような卓越した栄養源にすぎないことは既に述べましたが、このことから容易に思い浮かぶように殆どの食品はビタミンD欠乏食です。それ故、この一事をとって、日光浴が全ての人に有用なことは明らかであり、いたずらに逃げ回るのは決して得策でないことが分かります。

このように私たち自身にとっても日光浴は大切なものですが、ほんの少し注意が要ります。それは自然と疎遠な暮らしをしてる人ほど紫外線に徐々しに皮膚を慣らすようにすることです。多くの現代人は衣服を身に着け、殆ど屋内で暮らしていますので、紫外線に対する皮膚防護層がな

発行所

〒153

東京都目黒区目黒

4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行

会費年500円

電話 東京(03)

3793-5281

3712-5322

く、真夏の日光に急に当たると過度の炎症反応を起こします。例えば光線皮膚炎のような皮膚障害を起こすかも知れません。しかしこれは日常生活の場から日光を遠ざけるために起こる一過性の文明病とも言えるべきものですから、ちょっと気を付ければ防げます。そして大いに日光浴をして体内にビタミンDを蓄えてください。ビタミンDの前駆物質のプレビタミンD(7-デヒドロコレステロール)は脂肪とともに皮内にあり、これが本物のビタミンDになるには紫外線的作用を利用して化学反応を起こす必要があるからです。太古の昔から人々は日光は健康に役立つと信じてきました。経験からよく知られた事実ですが、夏に海水浴をした十分に日光を浴びてビタミンDを蓄えておくと、冬になって風邪を引かずにすむことがあります。ビタミンDには腸でのカルシウムの吸収を盛んにして骨を丈夫にするだけでなく、さまざまな成人病を予防し、外敵から身を守る免疫の働きを強める作用もあるのです。

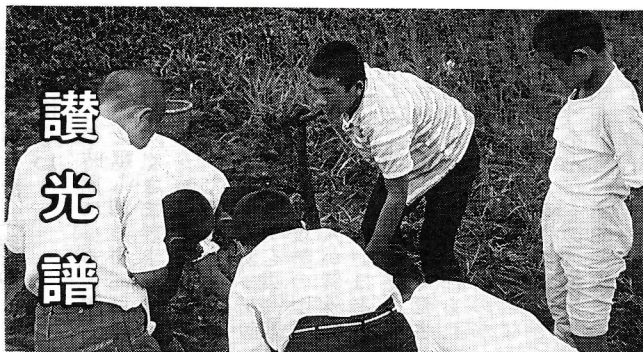
(五、六面に光線が免疫応答に与える影響について記載しました。)

夏季臨時休業のお知らせ
八月十四日(月)、十五日(火)の両日臨時休業致しますので、よろしくお願い申し上げます。
(株)東京光線療法研究所



ドジョウとり

宇都宮義真撮影



病気の真の原因

病気になるのは、外因に内因が係わっている。感染症を例に述べれば、罹患するか否かは細菌等（病原微生物）の外因と抵抗力のあるなしの内因との関係で決まるが、真の原因は細菌等より抵抗力の有無にある。抵抗力があれば、細菌等の中にいても発病しないが、抵抗力がないと容易に発病する。即ち感染と発病は別である。

風邪が流行しても、抵抗力が勝れば健康でいられるが、劣れば発病する。このように内因は病気と不可分の関係にあるが、感染症以外の病気も内因の欠陥が原因になる。

何が病気を治すか

病気になる、ならないだけでなく、病気が治るのも、一つの例外もなく、自分の身体の抵抗力の有無が関係している。結核や癌にかかっても、抵抗力のため自然に治癒し、自分でも病気になったことに気付かないこともある。

このように抵抗力は病を防ぎ病を癒す最前線で活躍する頼もしい味方である。従って抵抗力のない人が感染症になると、薬（抗生剤）で体内に侵入した細菌

菌を完全に殺せないため治らないのである。またこのような人は手術にも耐えられないので、名医もメスを持たないものである。最近、医学は進歩した、という威勢のいい掛け声をよく耳にする。しかし皆が健康になって病弱な人が減ったとか、不治と言われた病気が治るようになり病院も閑散としているとか、そういう言った話を聞くことはない。むしろますます人は虚弱になり、病院は大いに繁盛している。その原因の一つに健康を保ち病気を治す抵抗力の衰えがある。

何が抵抗力を高めるか

太陽光線は抵抗力を高める上で極めて重要である。自明なことだが、太陽光線がなければ、植物はどんなに肥料や農薬を与えても育たないし、動物も生きられない。人にとっても太陽光線に代わるものはなく、どんなに食事に気を付けても、どんなに良い薬を飲んでも、本当の抵抗力は得られないのである。しかし人はこの事実を無視して段々と太陽光線から遠ざかる生活をするようになったため、抵抗力を失ったのである。

昔、太陽光線のさまざまな作用を知らなかった古代人は、その働きを本能的に察知して神と崇めた。無心な草木に向日性が

光線は抵抗力を高める

宇都宮 義真

ある。西洋に「太陽の来ない家に医者が来る」という諺がある。このように科学が未発達な時代から、太陽光線が有益なことは信じられており、日光療法として病気の治療にも用いられた。而して近年になって、太陽光線が不足すると抵抗力を失

サナモア（炭素弧光灯）の利点

有史以来、人は光線療法の光

源として太陽光線を使ってきたが、夜間や曇天や室内などでは利用できない不便さがある。また大気汚染の塵埃は太陽光線の有効波長、特に紫外線を吸収し地上に届きにくくなった。一方科学の進歩は十分な効力を持つ人工光線を可能にしたが、光線療法に用いる人工光線は太陽光線を再現するものが理想である。

この観点から、サナモアの優れた点を列挙しておく。

- (1) 高純度のカーボン（炭素）を燃焼する温度放射を利用して、太陽光線の原理に最も忠実である。
 - (2) 太陽光線と同様に、赤外線、可視線、紫外線を連続スペクトルで放射する。
 - (3) カーボンの芯剤に入れる元素によって目的に応じ必要な波長を増量できる。
 - (4) 裸火であるから効率が低下しない。
 - (5) 他の光線治療器で同様な特性を持つものはない。
- このように抵抗力を高める上で有効な太陽光線の波長を効率よく応用できるのである。

「健康と光線」

昭和30年6月5日発行

―治療に応用される光線―
を要約した。

外用ステロイド剤による過敏症

はじめに

皮膚病の治療薬として汎用されている外用ステロイド剤(副腎皮質ステロイドホルモン)の外用薬による過敏症の一例を経験したので報告する。

貴士

渡辺

渡辺光線治療所

横浜市

症例

患者 30歳

女性

主訴 外用ステロイド剤を塗布した部位の浮腫性潮紅ならびに水疱と激烈な痒み。

既往歴 外用

ステロイド剤による過敏症がある。

現病歴 右足

母趾に爪甲鉤

彎症(つめ曲

がり症、爪甲内反症、まきづめ)

があり、抜爪術の手術で入院した。その入院中、かねてより左足の指の周りに赤くぶつぶつした発疹が出来ていたため皮膚科を受診した。

皮膚科で、既往歴に外用ステロ

外用ステロイド剤の副作用

医学博士 宇都宮 光明

外用ステロイド剤は、湿疹やアトピー性皮膚炎をはじめとして、実にさまざまな皮膚病の治療に用いられており、対症的には優れた効果を示すことはよく知られている。したがって渡辺光線治療所で経験したような症例に本剤が使われたのは、既往歴に問題がなければ至極当然のことと言ってよい。しかし患者は医師に本剤による過敏症で接触性皮膚炎を起こしたことがあ

イド剤を治療で塗布した部位に、発赤、かゆみ、発疹などの副作用が出たことがあると医師に告げたところ、皮疹のない背部を被検部位として薬の貼布試験(パッチテスト)をされた。その結果、貼布部分に発赤とかゆみが出たにもかかわらず、退院の前日に無理矢理左足の患部に外用ステロイド軟膏を塗られてしまった。

その数時間後より、塗布した所が我慢できぬ程のかゆみに襲われたため、直ぐに濡れタオルで薬を拭き取ったが、患部は赤

くなっている。医師からその時点でかゆみ止めの注射を打たれた。その翌日に退院したが、二日後になってもかゆみや浮腫を伴う潮紅や発疹がますますひどくなる一方なので、光線治療を希望して来所した。

来所した時点では、左足の足の裏から甲にかけて激烈な痒みがあり、真つ赤でかなり腫れており、発疹の中に小水疱が融合した水疱を認めた。

療法経過 最初はBカーボンとCカーボンを組み合わせて使用すると告げているのであるから、使うべきではなかったのである。

このような接触性皮膚炎を起こす原因物質は無数にあるが、殆どの症例で外用ステロイド剤が第一選択薬として治療に用いられている。しかし本剤の副作用の中に、皮膚の刺激感や発疹等を伴う過敏症、換言すれば接触性皮膚炎を起こすことがあるので注意しなければならない。特に本剤の場合には他の原因物質に比べて発症までやや時間のかかることが指摘されている。すなわち原因物質を特定する貼布試験の判定は、一般的には貼布後48時間から72時間で行われ

し、後にAカーボンを使った。治療は患部の周辺状況によって、照射野を開放にしたり集光器を使ったりしたが、症状との兼ね合いで最初のうちは長時間照射した。

治療を始めてからの数日間、症状はむしろひどくなり、左足は煮えたぎる油の中につけているような感じがする、と火傷のような灼熱感を訴えていた。また足の裏から膝の下にかけて赤くパンパンに腫れ、居ても立ってもいられないほどの激しいかゆみがあり、発疹は水疱に丘疹

るが、本剤では72時間から96時間以上経って初めて陽性になることがあり、あるいは一週間以上わたって陽性反応が持続することがあるので、時間をかけて慎重に判定すべきなのである。言うまでもないことだが、本剤に対する過敏症のある患者には禁忌であり、決して使ってはならない。

最後に今回の報告例についての感想を率直に述べるなら、外用ステロイド剤で起こした接触性皮膚炎の治療に外用ステロイド剤が使われなかったのが、せめてもの幸いと言うべきなのであろう。

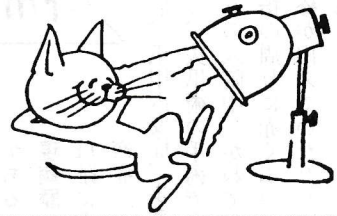
や膿疱が混在していた。そして足の裏や指の間から漿液や膿汁が流れ落ちるようになり、つま先から膝下にかけて皮膚がどす黒く変色し、壊疽を起こしたのではないかと心配する程であった。

退院して一週間後に手術後の検診で病院に向いた。医師は術後の経過は良いので問題ないが、左足の皮膚の状態を診て、即入院の手続きをとりなさい、と言われた。しかし光線治療の効果が始めていたため、入院を断って治療に専念することにした。

治療を始めて十日程した頃には、それまでの症状は急速に緩和し、潮紅や浮腫も引いてきた。二週間後には潮紅や腫れは完全になくなったが、カサブタになったところに痛がゆい感じが多少残っていた。その後、皮膚がフケのようにボロボロと落屑し、そこに健康な皮膚が再生してきた。

一ヶ月半後に再び病院を受診したが、既に全治していたため、医師からどうしてこんなに早く治ったのか、と大変不思議がられたことを申し添える。

TEL 〇四五一四〇一—一〇二四



— 治 験 例 報 告 —

☆膝内障

症例 51歳 主婦

症状 1月17日の大震災の後、飲料水や生活用水の水運びは日

々の暮らしの中で重要な仕事になったが、エレベーターが動かない坂の上のマンションの四階に住む今回の治験例の主婦も自宅までポリタンクに入った水を運び込む大変な労働を強いられた。高校時代はバレーボールの選手、ここ十年余りはゴルフを楽しむ、日頃から体力には自信があったが、四、五日過ぎた頃より膝が痛みだした。それから痛みは少しずつ強くなり、少し腫れてきたようなので専門医に診てもらったが、レントゲン検査では異常はなく、過度の労働に起因する膝内障と診断され、

当分の間安静にするように言われた。

サナモア治療器は数年前ゴルフ友達に勧められて購入していたので、はじめだけ治療してもらって後は自宅で治療したいとい

いて来所した。

身長162cm、体重58kg。

療法経過 Bカーボンで膝の前後に20分、膝の内側、外側から各10分、A Bカーボンで腰20分、足裏20分、腹10分、背10分照射した。帰る時には足の運びが少し楽だという。これからの自宅治療について、膝と腰には一日二回、その他の部位も少なくとも一回は照射するように指示した。

その結果、一週間後には痛みが軽くなって歩行が楽になり、三週間経った時には、それまで最もつらかった階段を下りるのが手すりにつかまらなくても出

☆十二指腸潰瘍

胃ポリープ

症例 53歳 男性 会社員

症状 上腹部に痛みや不快感があり、食欲がなく、めまいがするので病院で検査を受けた結果、十二指腸潰瘍と胃のポリープを指摘された。医師は二ヶ月をめぐりに経過を観察するが、状況に

来るようになり、坂道も以前と変わりにくくなるようになった。

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL078-8133211-358

☆いぼ痔(内痔核)

脱肛

症例 50歳 男性

症状 若い頃からいぼ痔に気付いていたが、大した苦痛を感じなかったのに気がしない。その後、年月を経るに連れて症状は段々と顕在化した。最近になって排便後に肛門から脱出した。いぼ痔が肛門内に戻らなくなり、仕事中でも椅子に座っていられず立ったり横になったりしないことには苦痛を我慢出来なくなった。なお病院でも、いぼ痔が肛門から脱出したまま肛門内に戻らないため脱肛を起

よっては手術の必要があるといわれた。この症例は以前から光線療法を愛用していた関係で相談を受けたが、二ヶ月間みっちり光線療法を行うことにした。療法経過 二台の治療器で、カーボンはA D、B Dを適宜使用して治療した。まず側臥位で上腹部30分、腹部全体30分、足裏30分、腰10分、膝10分、次いで仰

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA B C Dと効果が同じという根拠もないうたい文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので與々もご注意ください。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

こしている」と診断されている。

そのためこれまでいろいろな治療をしたが、症状は一進一退を繰り返していた。そんな折りに光線療法で痔病を治した経験を持つ会社の上司から、是非とも光線療法を受けてみなさいと強く勧められ来所した。

来所時、肛門の粘膜がめくれ、たようになり数個のいぼ痔が肛門から脱出していた。

臥位で、左右の肩5分、左右横腹15分、左右の膝横10分照射した。二ヶ月後の検診では、十二指腸潰瘍も胃のポリープも認めなかったため、手術は見合わせる。といわれたが、その後も自宅治療に切り替えて続けている。

川崎市 東京光線治療院
海渡 一二三氏報告
TEL044-72115067

療法経過 二台の治療器にA Bカーボンをセッとして治療した。

照射部位ならびに照射時間は、足裏に30分、40分、足首から足の甲に10分、20分、膝の三里を中心

に10分、20分、腰椎部10分、20分、仙骨部10分、20分、尾骨部10分、20分、肛門部に集光器を使用して40分、60分、喉頭部に10分、20分、腹部に10分、20分、両横腹に10分、20分、下腹部に10分、20分であるが、気持ちの良い間、熱く感じるまでを目安に行った。

治療中は気持ち良そうに眠っていたが、照射後には肛門部の苦痛も著しく楽になり、脱肛も良くなった。これからは自宅で全治するまでゆっくり治療したいと希望していた。

春日市 育美健康光線療研
前田 ミサ氏報告
TEL092-58112039

生体恒常性の 中軸にある免疫系

生体には自ら生成した自己物質と異なる非自己物質（主に異種蛋白）の受け入れを拒否し排除する免疫系と呼ばれる機構があります。臓器移植の際に見られる拒否反応を例に述べるなら、移植されたドナー

免疫応答を調整する光線療法 その1

自己防御機構の強化

サナモア光線協会 医学博士 宇都宮 光明

自己か非自己かを判別し、非自己なら排除すべき異質なものを、すなわち抗原（非自己抗原）として、この抗原と1対1の対応性を有する抗体をつくって非自己を排除します。もう一つは免疫学的特異性のない食細胞（好

中球やマクロファージやNK細胞など）が非自己を排除する機構です。生体はこれらの免疫系を働かせ自己を防御します。ちなみに免疫の語源は疫（病氣）を免れる、ということですが、例えば機会あらば浸入しようとする細菌やウィルスなどの病原

体から自己を防御するのも、自己の細胞が発癌因子の作用でガン化しても非自己として直ぐに排除して自己を防御するのも、免疫機構が働き監視しているからです。衆知のことですが、麻疹（はしか）に一度かかると二度とつかないのはウィルスに対する抗体が免疫学的記憶として保持されるからですし、予防接種で病気を防げるのはワクチンに含まれる抗原（不活化した病原体）で免疫抗体をつくれるからです。反対にエイズ（日本語では後天性免疫不全症候群）のように免疫機能が著しく低下する疾患（特に後述するT細胞が障害される）では、感染症や悪性腫瘍から自己を防御できないため容易に罹患します。

する免疫反応が、時としては自己に不利益をもたらすこともあることを示しています。この現象をアレルギーと呼びますが、抗原刺激に対して過剰に反応する状態のことで、そのため過敏症とも言われます。

加えて近年になって、免疫反応を起こさない（免疫寛容という）とされていた自己の細胞や組織を何らかの原因で非自己と認識してしまい、自己の成分と反応する抗体（自己抗体という）を生成し、自己の組織を障害することが明らかにされました。その結果として起こる病気を自己免疫疾患と総称していますが、さまざまな病気の病因と深く関わっています。

これらの事実、免疫機能が低下しても過剰に反応しても病気の原因になることを示しています。従って生体が健全な健康状態を保つためには、免疫系が抗原刺激に対して過不足なく反応する、即ち体内の内部環境を一定の状態に保つ生体恒常性（ホメオスタシス）を維持して反応しなければなりません。そのため免疫に関わる反応を一括して免疫応答と呼びますが、免疫系が生体恒常性を維持できないと両刃の剣として作用することになるのです。

免疫応答の機作

免疫応答は生命現象の根幹に関わる最も重要なものの一つですが、この機能を担当するのは白血球です。

その主なものは、

1. 単球・マクロファージ
2. T細胞
3. B細胞
4. キラー細胞（大顆粒白血球）
5. 好中球

であり、それぞれ独立して、あるいは連携して機能します。

ところで免疫系が作動するには、体内にあるものが自己なのか非自己なのかを判別しなければなりません。その役目を果たすのは単球と呼ばれる白血球から分化するのが主体と見なされているマクロファージと呼ばれる食作用を有する細胞です。この細胞は大食細胞とも言われますが、何でも細胞内に取り込み、非自己の場合は食殺菌や消化処理などによって排除しようとしますが、相手が手強くて排除できないと、その抗原情報をT細胞群のヘルパーT細胞に伝えます。

T細胞群には免疫系の中軸としてさまざまな機能を分担するT細胞が含まれています。ヘル

パーT細胞はその一つですが、マクロファージによって提示された抗原情報を処理して、抗体生成を手助けする役を担っています。即ちヘルパーT細胞はマクロファージから伝えられた情報をB細胞に伝達しますが、B細胞は抗体産生細胞に分化し、免疫グロブリンと呼ばれる抗体をつくり出します。これを液性免疫と呼びます。また抗原情報によって活性化されたT細胞の補助で、他のT細胞が抗体になる反応（感作T細胞という）があり、これを細胞性免疫と呼びます。

この細胞性免疫を担うT細胞には、ウィルスに感染した細胞やガン化した変異細胞や体内に侵入した異物などを攻撃し排除する機能を持つキラーT細胞（細胞障害型T細胞）、細胞が活性化して産生する生理活性物質のサイトカイン（インターロイキン2やガンマインターフェロンやB細胞増殖因子と分化因子やマクロファージ活性因子など）を放出して抗原を障害するDTH（遅延型過敏反応）エフェクターT細胞（サイトカイン産生型T細胞）があります。これらの反応は同じくT細胞から分化するサプレッサーT細胞と呼ばれる細胞によって過剰にならない（六ページへつづく）

(五ページよりつづく)

キラー細胞(大顆粒白血球)は機能的にはマクロファージと共通の性状を持ち、NK細胞、K細胞、LAKなどがあります。NK(ナチュラルキラー)細胞は腫瘍細胞などの標的細胞を抗体で感作することなく直接破壊しますので、生体内で細胞が自然に悪性に転化した場合などには重要な働きをしています。K細胞は抗体の結合した標的細胞を障害する(抗体依存性細胞障害)細胞です。LAKはT細胞の産生するインターロイキン2によって幅広い種類の腫瘍細胞を障害できるようにする細胞です。

好中球は、化膿菌を食殺菌する重要な細胞です。好中球は細菌を捕捉すると、取り込んだ細菌に殺菌作用を持つ酵素を作用させて殺菌します。

光線を浴びると

免疫力がアップする

免疫応答が生命維持の基礎をなす生体恒常性を維持できないと、感染症、ガン、アレルギー性疾患、自己免疫疾患などにかかり易くなることは前述しましたが、間接的にはあらゆる病気の経過に悪影響を与えると

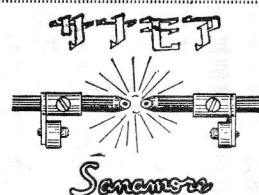
っても過言ではありません。従って免疫応答を維持する機構を強化することは極めて重要なことです。しかし医学は未だにこの目標を実現し得る手段を持ち合わせていません。この目標を達成しようと思うなら、余りに常識的なことと言われるかも知れませんが、日頃から健康に気を付けることしかありません。それには地味であっても日常生活で食事や運動に留意し、年間を通して光線を浴びることを忘れてはなりません。何故なら、文明社会に住む現代人の多くは光線の大恩を忘れ、光線から遠ざかった弊害に気付こうとしませんが、自然の摂理は光線が免疫応答を維持する上で不可欠な働きをする仕組みをつくっているからです。

光線が免疫応答に果たす役割については、次号で改めて述べますが、要約すれば光線によって生成されるビタミンDやビタミンDが吸収を左右するカルシウムが免疫応答を担う細胞の分化やサイトカインの産生に直接あるいは間接に極めて大きな影響を及ぼす、ということが見出されています。例示するならば、ビタミンDは胸腺皮質細胞から胸腺髓質細胞への分化を促進することによってT細胞の成熟を

促し、ヘルパーT細胞には直接作用してその機能を賦活します。またT細胞が産生するサイトカインのインターロイキン2やインターフェロンを介して免疫を担当する細胞の機能を調整し、免疫系の機能を全般的に高めま

す。ビタミンDには単核芽球から単球、マクロファージへの分化誘導を促進する作用もあります。なおビタミンDの欠乏でカルシウムの吸収が阻害されると、免疫を担当する細胞の細胞内カルシウム濃度が上昇して本来の機能が発揮できなくなるため、免疫系にさまざまな悪影響を及ぼし、自己防御機構を弱体化させることにつながります。それ故、光線の不足が原因で免疫応答の機構に異常をきたし、それが原因で病気になるとしたら、文明病の一種と見なすべきでしょう。

このように光線で生成されるビタミンDが免疫細胞に及ぼす作用を介して、光線は免疫力のアップに深く関わっています。従って、光線療法を常に活用することで免疫応答が正常に働くように調整し、免疫機構を強化しておくことは、病に侵されない健康な身体をつくるだけでなく、病を癒す本当の力を与えてくれるのです。



サナモア光線協会 趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に適切に放射しなればなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三—五二八一
三七二一—五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)